



香野 藤雅



ガビン先生と  
楽しく学ぼう！



「日本の古典文学」

十時とウラ話

古典から見える昔の食生活

その上

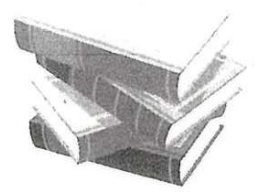
令和三年五月二十八日(金)

十時 総合市民センター

### 総合市民センター

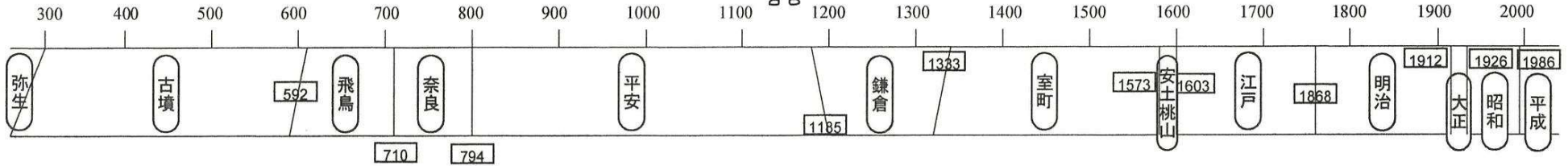
☎(24)9511 FAX(23)7444  
Ⓢ祝日、年末年始

▼ガビン先生と楽しく学ぼう！  
「日本の古典文学」+ちょっとウラ話  
5月28日(金)、6月25日(金) 10時～11時  
30分／内容＝古典から見える昔の食生活／講師＝伊藤雅敏先生／対象＝一般／定員＝25人(申込順)／申込＝4月22日(金)9時～電話にて。土日も17時まで申込可



# 春の 花草木の 歴史

## ミニ知識



**2000年前 中国原産**  
 3世紀末 王仁? 遣唐使が持ち帰った?  
 朝鮮半島を介して伝来したか?  
**梅** 751年 「懐風藻」に葛野王の五言詩 「万葉集」に120首の詠歌  
 紅梅渡来  
 960年頃 村上天皇が病 梅干しと昆布の茶 回復  
 鎌倉時代の『世俗立要集』 「梅干ハ僧家ノ肴」  
 戦国時代 兵糧食  
 江戸時代 庶民の食卓 梅干しの 紫蘇漬け  
 明治維新で 一時途絶え

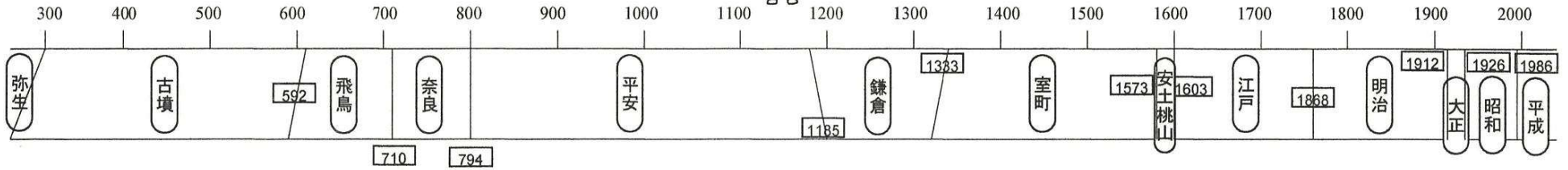
**原産は数万年前 ヒマラヤ地方**  
 「古事記」 コノハナサクヤヒメ (木花之佐久夜毘売)  
**桜** 812年 最古の桜の花見 嵯峨天皇 主催  
 「徒然草」 貴族は上品に楽しむ 一般庶民は はしゃぐ  
 1594年 吉野山の花見 豊臣秀吉主催 家康利家正宗 仮装して参加  
 1720年 徳川吉宗ソメイヨシノ 浅草、飛鳥山 桜を移植(隅田川氾濫) 桜の根が天然の堤防

**菖蒲湯 中国かなり古い しょうぶニ**  
**あやめ草** 「万葉集」 かきつばた  
**あやめ**  
 「古今和歌集」 在原業平 「伊勢物語」  
**花菖蒲** 戦国時代 東北地方で 色変わり種 アヤメと呼称 江戸時代に品種改良

**紫陽花** 「万葉集」 『味狭藍』 『安治佐為』 2首のみ ガクアジサイ ○日本原産  
 「和名類聚抄」 源順 『阿豆佐為』 「古今和歌六帖」  
 源俊頼 藤原俊成 藤原定家  
 狩野永徳の屏風絵 挿し木で増えるので 植木屋は売りがらなかった シーボルトが オランダから逆輸入  
 ホンアジサイ  
 古今和歌集、枕草子、源氏物語 一切、登場しない  
 三浦半島、房総半島、伊豆半島 硫黄島に自生する(カクアジサイ)

# 秋・冬の 花草木の 歴史

## ミニ知識



2000年前  
中国原産

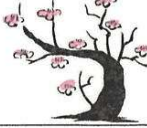
朝鮮半島を介して  
伝来したか?

梅

751年  
「懷風藻」に  
葛野王の五言詩  
「万葉集」に  
120首の詠歌

紅梅渡来

960年頃  
村上天皇が病  
梅干しと昆布の茶  
回復



鎌倉時代の『世俗立要集』  
「梅干ハ僧家ノ肴」

戦国時代  
兵糧食

江戸時代  
庶民の食卓  
梅干しの  
紫蘇漬け

明治維新で  
一時途絶え

3世紀末 王仁?

遣唐使が持ち帰った?

3000年  
以上も前  
中国原産

神聖な力=菊酒  
菊の香りの酒  
唐から改良品種  
散らばった米  
「礼記」鞠 (はなびらが米にたとえ)

菊

751年  
「懷風藻」に  
長屋王が新羅の使節  
への  
宴会

\*万葉集に無し  
『百代草』?  
絵画や  
漢詩から  
菓草



1200頃以前  
後鳥羽院の定め  
「十六葉八重表菊」  
皇室の御紋  
刀への刻印から

駒込・巢鴨  
↓植木屋  
幕府が五節句制定  
長寿祈願  
「重陽の節句」菊酒

江戸菊、美濃菊

尾花

すすき 薄 芒 「秋の七草」  
万葉集 巻8 1537

「秋の野に 咲きたる花を 指折り かき数えれば 秋の七草」  
1538 「萩の花 尾花葛花 撫子の花 女郎花 また藤袴 朝顔の花」  
桔梗?

およびをり

江戸中期 『鶉衣』 横井也有 俳文集  
「化け物の 正体見たり 枯尾花」  
与謝蕪村  
「狐火の 燃えつくばかり 枯尾花」

600年頃  
中国 随  
「海石榴」  
「山茶」

椿

733年 「出雲風土記」  
「椿」は国字訓  
「日本書紀」  
景行天皇

「万葉集」9首  
「源氏物語」  
つばいもち  
「津葉木」 葉がつややか  
「厚葉木」 葉が厚い



豊臣秀吉  
茶の湯  
狩野山楽  
「百椿図」  
花落ちる

山茶花

自生していたのは白い花



花散る

松尾芭蕉  
「野ざらし紀行」1684年  
狂句こがらしの 身は竹斎に 似たる哉  
正岡子規  
山茶花の ここを書斎と 定めたり



武田本

から衣きつゝあねもけしきもあねも

天福本

から衣きつゝあねもけしきもあねも

尊鏡親筆本

果の羅きつゝあねもあねもけしきもあねも

御所本

から衣きつゝあねもけしきもあねも

嵯峨本

から衣きつゝあねもけしきもあねも

武田本

あねもけしきもあねも

天福本

あねもけしきもあねも

尊鏡親筆本

あねもけしきもあねも

御所本

あねもけしきもあねも

嵯峨本

あねもけしきもあねも

から衣きつゝあねも

あねもけしきもあねも

武田本

とよめりかれもみなごしとかれこのうへ

天福本

とよめりかれもみな人かれこのうへ

尊鎮親王筆本

わさりかれもみなごしとかれこのうへ

御所本

とよめりかれもみな人かれこのうへ

嵯峨本

とよめりかれもみな人かれこのうへ

武田本

かみさたててほとこのうへ

天福本

えりなみとわとてなごしこのうへ

尊鎮親王筆本

わさりてほとこのうへ

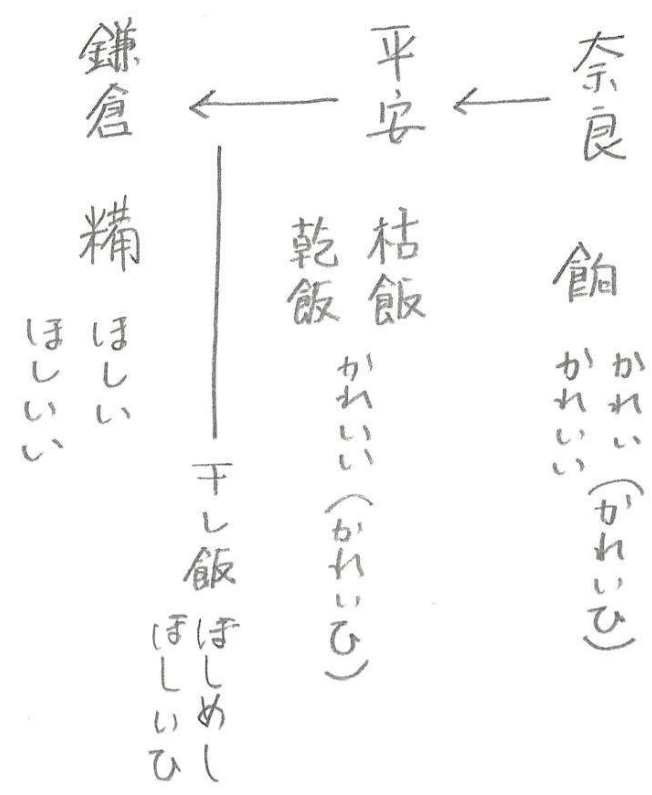
御所本

うへりなみとわとてなごしこのうへ

嵯峨本

後おとてなごしこのうへ

とよめりかれもみな人かれこのうへ  
なごしだおとてなごしこのうへ



旅に出る時の

常備食 携帯食



米を炊く・蒸す (100g)

天日で干す 3~5日干す

(電子レンジで「チン」)

水または湯を注ぐ

食べる ← 100g 水 11 / 時間 湯 11 30分

20年近く

保存できるらしい



ほと 潤むにけり



山上憶良

都福斯良農

常知らぬ

いつもと違ふ

常知らぬ道

回生への道

道乃長手袁

道の長手を

長い道のりを

久れ々々等

くれくれと

暗闇の中に

西も東も分からぬ  
暗い道をとぼとぼと

伊可尔可由迦牟

いかにか行かむ

どのようにして行こう  
私行おぼはらなぬか

可利弓波奈斯尔

かりてはなましに

食べる物さえ無きに

云 可例比波奈之尔

云 かれひはなりに

手鉢も無きのに

相撲使の国司の使人となって

くまじり

奈良の都へと向かう途中でとくなつた大伴君能瀨の死を悼み

山上憶良がとくなつた能瀨になり切つて詠んだもの

暗いあの世への道を行く不安を詠った。

熊瀨は肥後国益城郡出身 十八歳で病氣になり死去

安芸国佐伯郡ととくなる 一函親に念えずとくなること恨し

伊曾保物語下

第一 蟻と蟬との事

とる程に春過ぎ夏た開け秋も深く冬この比ひにも  
なりしかば日のうりくいなる時蟻穴より這い出で

餌食を干しなす 蟬きた来つて蟻に申すは

あないみじの蟻殿やかゝる冬ふゆざれまでままやうに

曲まがに餌食を持たせ給ふものかな 我に少ちの

餌食を賜たまひ給へし申しければ蟻答へて云いく

御おん辺は春秋の営いみには何事をかし給ひけるぞ

といへば蟻答へて云く 夏秋 身の営いみとは

梢しほにうたふばかりなり その音曲ねまがに取と乱らんし

隙ひまなきまゝに暮くし候まを といへば蟻申しけるは

今いまとてもなまじうたひ給はぬぞ 謡うた長ながくは



終つひに舞まわとまり取れ うけたまわ いやキ、飢食を求めて  
何にかはし給ふべきとて穴に入りぬ

その如し人の世のある事も我が力に及ばん程は  
たしかに世の事も増むべし つゞまやかに  
せざる人は貪あきらうして後のちに悔ゆるものなり

盛さかなる時 学がくせざれば老おひて後、悔ゆるものなり  
酔よめうち乱みだれぬれば醒さめて後、悔ゆるものなり

絵入 万治二年本

為永春水による  
絵入 喜活字本



# 昆虫食

# セミ

BC 6世紀  
ギリシア  
アテナイのホメロスが作った  
「インツォ」物語

ギリギリス  
になった

縄文時代  
遺跡・黄石→虫食

平安時代  
「本草和名」イナゴ  
並木物辞典

室町時代  
宣教師

江戸時代初期

仮名草子「伊曾保物語」  
世の中に広がる出版

1593年伝来  
(文禄)

「話」が伝わった中で  
「アルプス以北にセミはいない」

古代ギリシャ(アリストテレス)

セミを食べた  
「利化する」と削るのが最も多い

中国  
素揚げ↓塩

河西省  
羽化の幼虫

山東省  
煮付、揚げ、炒め

雲南省  
ゆでてすりつぶし

東南アジア  
セミみそを作る

沖縄(本島)  
焼いて食べる

信州  
幼虫のカラアゲ

「ファール昆虫記」  
1878①  
1907⑩

セミの幼虫  
オリーブ油に塩ひとつまみ  
玉ねぎを少し加える

フライにする

「エビの味がした」

「イナゴの串焼きに近い」

1934  
ドイツ  
「ルーズベルト大統領の  
社会保障制度」

「政治的配慮」

「アリが食べ物を分けま  
代わりに」

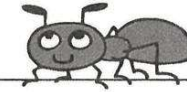
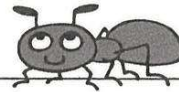
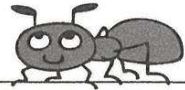
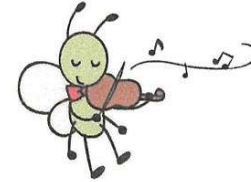
ギリギリスが  
「ヴィオリンの演奏」

2020.6/4  
無印食品

キリギリスが「食料を分けてほしい」とアリの家を訪ねる



食べ物を あげない



アリは  
「夏は歌って過ごしていたから、  
冬は踊って過ごせば  
いいんじゃない?」と言い、  
扉を閉めて  
追い返してしまいました。

そしてキリギリスは、そのまま  
アリの家の前で凍え死んでしま  
うのです。

夏に馬鹿にされたことを  
根にもっていた?

×キリギリスはそのまま死ん  
でしまう  
※子ども向けの童話としては  
日本ではそぐわない  
よってキリギリスは改心

キリギリスが泣いて感謝をし  
翌年から勤勉に働くようにな  
った。

アリは  
「夏も歌って過ごしたから、  
冬も歌えば  
いいんじゃない?」と言い

すると  
キリギリスはこう答えました。

「もう歌うべき歌は  
すべて歌った。  
君は僕の亡骸を食べて  
生き延びればいいよ」

後先を考えず遊んでいるだけに見えた  
キリギリスでしたが、  
実はすべて見据えたうえで、

皮肉で ↓ ↓ やり返したアリ

後先を考えずに過ごすと後で困る

優しさが ↓ ↓ 手を変える 生きている時間を ↓ ↓ 命がけで楽しんだ

困った人を助ける優しい人になるべき

幸せの尺度は人によって違う